

1 はじめに

(1) 基本構想策定にあたっての背景

新見駅周辺エリアは、山陽と山陰を結ぶ要衝であるＪＲ新見駅を中心に住宅や商店が集積し、本市の中心市街地として発展してきました。しかし、近年の少子高齢化や人口減少に伴い、空き家や空き地等の増加、居住人口の減少、駅利用者の減少、商業構造の変化などにより、地域の著しい活力低下が課題となっています。

一方、本市においては、新見公立大学の学生数が増加し、まちづくりの担い手として学生の参画が期待されています。市内の学生向けの住居不足、そして駅周辺の活力低下という課題を解決するため、新見駅西エリア整備事業により学生向け賃貸住居と公立大学のサテライトスペースを備えた学生居住棟が整備されました。

このような背景を踏まえ、本市において将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、市の玄関口である新見駅周辺を核とした、都市機能の充実やにぎわいの創出が求められています。そこで、民間を主体とした「新見駅周辺まちづくり検討委員会」を設置し、ワークショップやアンケートなどにより多くの市民の皆さんの意見を取りまとめた「新見駅周辺まちづくり基本構想」（以降、「本構想」という。）を策定しました。本構想では、新見駅周辺のまちづくりの目標や方向性などの基本的な考え方と具体的な取組を提示しており、多様な主体が連携してさまざまな取組を実行し、まちづくりを推進していきます。

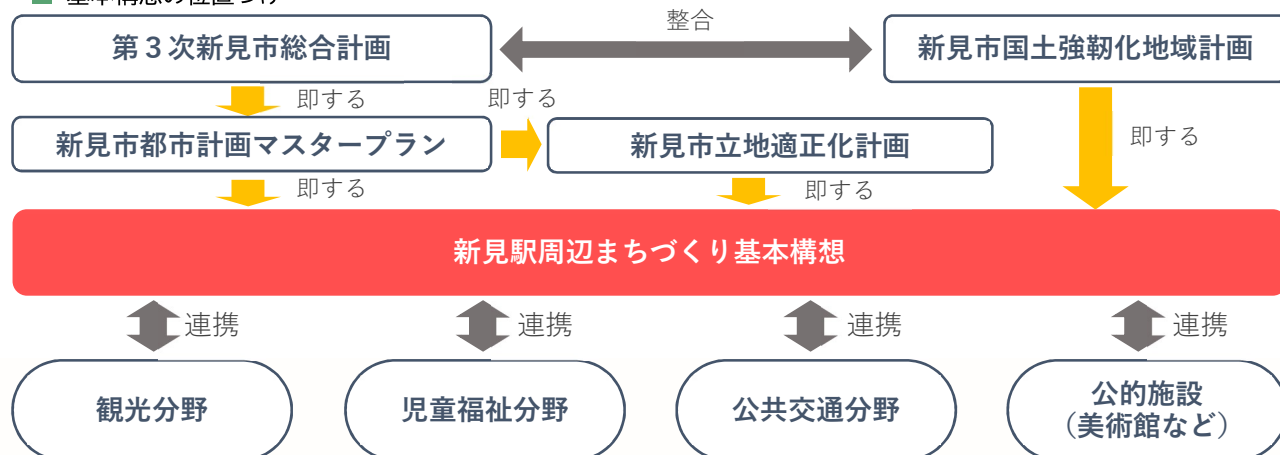
(2) 基本構想の位置づけ

本構想は「第３次新見市総合計画」や「新見市都市計画マスタープラン」「新見市立地適正化計画」「新見市国土強靱化地域計画」の内容に即するものとして作成しています。

また、新見駅周辺まちづくりの目指す将来の姿（イメージ）を示したものであり、市民、事業者、行政それぞれが目標を共有し、実践する具体的なまちづくりの取組を、相互に連携しながら進めるための指針と位置づけています。

今後、施策の実現に向け、推進フローや予算について詳細な検討を行い、まちづくりに取り組んでいきます。

■ 基本構想の位置づけ



(3) 基本構想の対象エリア

本構想では、特に重点的に都市機能の充実やにぎわいの創出を目指すエリアとして、ＪＲ新見駅を中心に下図のエリア（以降、「本エリア」という。）を設定しています。

■ 基本構想の対象エリア

